

平成 27 年度第 2 回 TMT 推進小委員会議事録案

9 月 7 日(月) 11:00-16:00 @ 三鷹

於: 国立天文台大会議室

出席者: 山田、家、臼田、秋山、本田、小杉、泉浦、佐々木、松尾、田中、岩室、大朝、住、戸谷、永山、野村、吉田、阪本、小嶋、青木、山下、尾崎、鈴木、柏川 (順不同)

議事録: 柏川

***** 議題 *****

1 委員紹介

2 委員長互選、幹事決定

3. TMT プロジェクト 進捗 (臼田、TMT プロジェクト室)

- ボード報告 (臼田・家)

- SAC 報告 (柏川)

- 主鏡報告 (山下)

- 望遠鏡報告 (臼田・杉本)

- IRIS 報告 (早野・鈴木)

- WFOS (宮崎・尾崎)

4. TMT フォーラム報告 (参加された委員の方、SAC メンバ)

5. これまでの TMT 推進小委員会活動 (山田)

6. TMT サイエンス検討・推進

- TMT Detailed Science Case (2014) 報告

- ISDT Key Program

- 今後のワークショップ、シンポジウム、学会セッション

次回 TMT フォーラムの日本での開催について

7. TMT 運用検討・推進

- これまでの検討と今後の課題 (小杉)

8. TMT 装置開発の推進

- TMT 戦略基礎開発研究経費 (柏川)

9. 今期の活動方針、指針について

*****A/I*****

将来的な TMT 観測装置開発を国内でどう推進していか引き続き検討する。

1 委員紹介

新委員・継続委員の自己紹介を行った。

2 委員長互選、幹事決定

委員長に山田亨氏、幹事に柏川伸成氏を選出した。

3. TMT プロジェクト 進捗

臼田プロジェクト室長を中心に、資料に基づきこれまでの TMT プロジェクト全体、および JTMT の活動、進捗について説明があった。

- ボード報告 (臼田・家)
- SAC 報告 (柏川)
- 主鏡報告 (山下)
- 望遠鏡報告 (臼田・杉本)
- IRIS 報告 (早野・鈴木)
- WFOS (宮崎・尾崎)

山頂工事休止に関して多数質疑応答。

Q: 講演会などで TMT ができるとすばるは停止するのか、という質問をよく聞かれるが、なんと答えたらよいのか?

A: そうなるとは考えにくい、としか答えようがない。

PMA 破損事故についてその原因と今後の対策について多数質疑応答。

WFOS の PIPM 不在の件について懸念が表明された。

4. TMT フォーラム報告

6月にワシントン D.C.で行われた TMT フォーラムについて、概ね盛況であったことが報告された。

5. これまでの TMT 推進小委員会活動

これまで本委員会ではどのようなことが議論されていたのか、山田委員長からの総括があり、今後の議論項目として何があるかについて共通理解を得た。

6. TMT サイエンス検討・推進

- TMT Detailed Science Case (2014) についてまとめられ Arxiv に掲載されたことが報告された。

- ISDT Key Program については策定中である。各ワーキンググループでの検討状況を確認したところ、以下の通りであった。

-- time domain: 2週間に1篇くらい skype 会議。DSC と同じことを書いているので

motivation がさがる。アイデアが乱立していてあまり key science にまとまっていない。inte-parner で Too にどう対応するかを主に議論。

-- exoplanets メール交換が2か月ほどない。

-- high-z 一度 skype 会議を行い、何件かの提案が出された。その後メールで細々と議論継続中。

-- star formation 3つの提案にしぼりこもうとしているところ。

- 今後のワークショップ、シンポジウム、学会セッション

TMT フォーラムへのアジアからの参加者が減っていることと、アジアと US の絆を深めることを目的に来年 2016 年の TMT フォーラムについてアジアでの開催が検討されている。日本での開催について指示する声が多く、京都を第一の候補地として提案することになった。早速京都周辺の委員を中心に検討が進められ、京都国際交流会館がフォーラムの会場としてふさわしいと提案があった。日程としては、7月は観光のハイシーズンであることから、6/7-9, 14-16, 21-23 の3ブロックが提案された。今後世話人を中心に検討を進めることになった。

- 今後のサイエンス検討

今後のサイエンス検討についておおまかな検討事項、問題点について議論を行った。

- WFOS サイエンスチームにも日本から貢献がほしい。
- 大学でも2年くらいの単位で TMT に貢献できる枠組みがあるとよい。
- キュー観測、Too 観測について議論すべき。
- 第2期装置に向けてのサイエンス検討。
- 数年前に国内でサイエンス検討冊子を作ったが今後どうするか？
- 国内研究者を啓蒙するような国内ワークショップを開いたほうがよい。

7. TMT 運用検討・推進

これまでの検討と今後の課題について小杉委員から報告があった。

- 天文データセンターとの関係 データセンターがレンタルした計算機を用いて ALMA が雇った職員が仕事をする。
- すばるのアーカイブとの関係は？ すばるは基本的に生データのみ。
- TIO は基本的に生データのアーカイブしか想定していない。日本の貢献にならないかも知れないが、日本としては ALMA とリソースを共有して検討を進めたい。
- すばる望遠鏡との協力するタイムスケールも考えながらうまくリソースを共有して進めたい。

まず本委員会ではアーカイブに必要な要件をまとめたい。

8. TMT 装置開発の推進

TMT 戦略基礎開発研究経費についてその目的と経緯について柏川委員より報告があった。

- 額が小さいのでこれで役立っているのか、先行きが心配である。
- できれば人を雇用して共同研究できるような枠組みをつくりたい。
- 新しいアイデアを実験してみる、というような使い方には有効である。
- 大学にとって TMT がどのような役だっているのかが評価の対象になる。

9. 今期の活動方針、指針について

- 広報に対するアイデアは？
- 隣接分野（高エネ・惑星科学）への展開 に対するアイデアは？

次回、次々回は、10/28, 2/17 とすることを決めた。

以上。